

寅さん歩 その 11

江戸・東京の祭-58

(江戸らしい祭-24)



平野 武宏

〔九品仏 浄真寺 来迎会（おめんかぶり）〕

世田谷区奥沢 7-41-3

最寄駅 東急大井町線 九品仏駅

文政 10 年(1827 年)に始まり、東京都無形民俗文化財(民俗芸能)に指定の「**厳粛な仏教行事**」を「祭」と位置付けて罰が当たりそうですが、ご勘弁をいただきたい。

境内の説明板には『当山には広く「おめんかぶり」の名で親しまれている行事がある。これは三年ごとに奉修される「阿弥陀如来二十五菩薩 来迎会」のことで、無形文化財に指定されている。念仏行者が臨終の夕べに、阿弥陀さまが二十五の菩薩さまを従えて、西方浄土よりご来迎になるという、浄土の教えを行事にしたもので、その日は三仏堂から本堂への懸橋を信者の方々が菩薩のお面をかぶって行道する、尊くもまた厳粛な儀式である。』

この「おめんかぶり」は、三年に一度の行事であり、平成 29 年(2017 年)5 月 5 日午前 11 時・午後 4 時の 1 日 2 回おつとめする。関東においては、当山のみの行事であり、ぜひ一度御結縁あらんことをお勧めする』と記載。前回までは 8 月 16 日に行われていたが、暑さのため、今回から 5 月 5 日の開催に変更したとのこと。



写真上左は「東門」、右は「仁王門」で楼上には阿弥陀如来と二十五菩薩が安置されているとのこと、いつもは閉まっている楼上の扉は、本日の登場のために開いているとのこと。

境内には「本堂」に对面した「三仏堂」(向かって右から中品堂・上品堂・下品堂)が並び、それぞれに3体の阿弥陀如来像が安置されています。九品(くほん)とは極楽往生の9つの階層を表しているとのこと。二十五菩薩 来迎会とは本堂を「娑婆」、対面の三仏堂(上品堂)を「浄土」に見立て、36間(約65m)の橋を架け、その橋を行き来する行事です。「娑婆」から僧侶に導かれた25人の善男善女(公募したとのこと)が付添い人と共に橋を渡り、「浄土」に向かいます。雅楽の方々(増上寺から応援とのこと)、僧侶たちが続きます。



今度は「浄土」から雅楽を先頭に、25の菩薩の面をかぶった行列が続き、「娑婆」へ戻って行きます。菩薩が前にかけている袋には身近な人の位牌が入っているとのこと。菩薩のお顔は同じようですが、手に持つものがそれぞれ違うようです。菩薩の最後尾は地藏菩薩とのこと。





これで終りかと思ったら、このまま「娑婆」にいるわけにはいかない
 ようで、行列は再び2基の万灯、雅楽を先頭に「浄土」に向かいます。
 暑さでお疲れの様子の子菩薩もおられました。



行列には厨子に乗った開山の珂碩上人坐像、稚児行列、現世のご上人さまが続いて「浄土」へ向かいます。
最後は「浄土」からは菩薩のお面を外した 25 人の善男善女が「娑婆」へ帰って来ました。橋の上でご上人さまが立ち止り、お念仏を唱え、11 時から約 40 分に亘った儀式は終了です。16 時から 2 回目のお勤めが行われるそうで、お疲れさまです。



〔こぼれ話-1〕 九品仏 浄真寺

正式には「九品山 浄真寺」、通称は「九品仏 浄真寺」とのこと。

昔、この地は奥沢城と呼ばれ、北条氏に従った世田谷城主 吉良氏の重臣の大平出羽守の居城でした。北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされると、吉良氏は下総へ逃げ、大平氏も等々力に潜住し、奥沢城は廃城となりました。

浄真寺は延宝6年(1678年)第4代将軍 徳川家綱から奥沢城跡を賜り、「珂碩(かせき)上人」が開山となり、堂塔を建立した寺で、浄土宗 京都知恩院末で増上寺の別院とのこと。約3万6千坪の境内に総門、閻魔堂、仁王門、開山堂、本堂、それぞれに三体の阿弥陀如来が安置の中品堂・上品堂・下品堂(合わせて三仏堂))があります。

墓地には東急電鉄創設者の五島慶太・昇親子、「君の名は」の菊田一夫、第1回芥川賞作家の石川達三、俳人の加藤楸邨の各氏が眠っています。閻魔堂については「寅さん歩 その13 お江戸の閻魔大王-4」を参照ください。



総 門



開山堂(珂碩上人の像安置)



仁王門(1793年建立)通常、楼上扉は閉。



本 堂(1698年棟上)





三仏堂は本堂に對面して、向かって、右に中品上生堂(中品堂)、中央に上品上生(上品堂)、左は下品上生(下品堂)と並んでいます。棟上は本堂と同じ時期とのこと。3堂にはそれぞれ、3体、合計九品仏が安置されています。

上品堂の3体とは中央に上品上生(じょうぼん じょうしょう)、向かって右脇に上品中生、左脇に上品下生と並んでいます。中品堂には中品上生、中品中生、中品下生。下品堂には下品上生、下品中生、下品下生の仏が同じように並んでいます。写真上の中品上生の中央の阿弥陀如来は平成の大修繕でご不在。1体の修繕には1年半から2年を要するそうで、2014年からの「平成の九品仏大修繕」の終了は2034年とのこと。

〔こぼれ話-2〕 鷺草伝説 ～常盤姫悲話～



写真上左は仁王門を入り右手の本堂脇にある「鷺草園」、8月には白い花が咲くそうです。この一帯を支配していた世田谷城第7代城主 吉良頼康には北条家から迎えた正室のほかに、側室が12名いました。家臣の奥沢城主 大平出羽守の娘 常盤姫を新たに側室とすると、寵愛を一身に受け常盤はやがて懐妊します。これを妬んだ他の側室たちは、あらぬ讒言を頼康に吹き込み、これを信じた頼康は常盤姫の成敗を命じました。城を脱出する直前に白鷺の足に遺書を結び、実家の奥沢城(現在の九品仏浄真寺)に放った姫は、追っ手に追いつかれ、馬引沢中郷で自害を遂げました。

奥沢城近くで狩りをしていた頼康は飛んできた白鷺を射落とします。足に結ばれていた遺書を読んだ頼康は急いで帰城しますが、すでに常盤姫は亡くなっていました。

讒言をした側室たちを成敗した頼康は常盤姫の霊を静めるため、田中弁財天を勧請し、駒留八幡社に祀りました。白鷺が死んだ呑川のほとりに、いつしか白い可憐な花が咲くようになったといいます。

鷺草は「世田谷区の花」に指定されています。

次回は 東京に こんなところ-17 です。

平野 寅次郎 拝